第１２回柳葉敏郎チャリティーソフトテニストーナメント報告

第１２回柳葉敏郎チャリティーソフトテニストーナメントは、２０２６年１０月２４日（土）に大仙市 総合公園テニスコートで開催。記念撮影や主催者挨拶などの開会式、柳葉さん＆地元出身選手と小学生ペアによるエキシビジョンマッチ、お楽しみ抽選会やトークショー等 を含む閉会式を織り交ぜつつ、全試合を完了した。本報告はこの大会の概要や様子をお届けする。



全体記念写真撮影　合計年齢により 4 種別、96 ペア 192 人が参加



最近は毎年雨続きの本トーナメント、当日は午後３時頃から降水確率が上がる予報だったが、最後まで出来そうな雰囲気がスタッフに出ていた。

大会役員ミーティング
右から２番目が柳葉さん

今年は大曲ファミリースキー場が閉鎖されたことで、スキー場ロッジが使えないことになり、雨天時対策だけでなく、汁物の提供をどこでどうするかを悩んだが、テントをできるだけ用意することや、参加者にも簡易テントの持ち込みOKをXで告知した。
結果的に一時小雨が降り、傘の花が開いたが、選手の試合には問題無かった。
受付では、棄権なし選手変更無し。



開会式では、加藤会長の挨拶の後、柳葉さんの挨拶はいつも通りに元気な言葉で参加者を和ませた。





選手宣誓は、唯一１２大会連続参加の高橋好彦(角館)選手とペアの藤原純選手。高橋さんは少し緊張したように感じたが、後で聞くと本人は落ち着いて宣誓しようとしただけ！とのこと。

開会式後に、グループ写真撮影と全体写真撮影か行われ、昼ころにはグループ写真が全員に配られた。

第１試合、１コートで柳葉さんと後藤広実さんのペアの試合が始まると、石垣さんがそれを告げて、周りには多くの方が座って観戦した。

柳葉さんのナイスプレーには、拍手が大きくなり、柳葉さんも声をだしてそれに応える姿は例年通り。



最初の試合は負けてしまったが、試合するごとに、柳葉さんのプレーがいつものような、リズムあるストロークと精度あるボールがライン際に行きだした。
今年もまた、練習していなかったようだ。

試合は、5ゲームマッチ、ファイナルゲームは7ポイント先取のサイドチェンジ無しで進められ、順調に進んだ。



試合の合間に各コートの試合を眺める柳葉さん



サインや写真撮影に快く対応する柳葉さん

お昼には柳葉さんと大曲高校 OB の高橋憲司さんのペアで、抽選で選ばれた小学生 2 ペアとエキシビションマッチを行なった。





試合は予定より少し早く終わり、直に閉会式の準備に入ったが、石垣さんより今年もドッカン生中継がある事を告知。中継の際のお願いをしてから閉会式が始まった。

ドッカンの生中継をご覧になった方は、大会の雰囲気が伝わったのではないだろうか。



柳葉さんからは、１２回も続き皆さんに感謝していることなどを伝えて閉会となった。



閉会式後は、お楽しみの抽選会で、柳葉さんが選んだ番号を石垣さんが読み上げると、歓声とため息が交じりながらも、和やかな雰囲気のまま解散となった。



